

### 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	更なる継続を続けていく。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	隣家とのつながりが深くなっており、散歩の時に寄ったりお茶飲みによったりしていることが継続している。こようよい関係を構築していく。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	スタンプラリーに参加しており、子供達ともの作りをしたり、地域中学生の交流も行っている。年齢層の交流の機会を多く持ち、幅広く地域の中で生活支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>6 事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>介護予防教室への参加、人材育成の貢献として、実習生の受け入れも積極的に行っている。</p>	○	<p>ボランティアの充実を図っており、社会福祉協議会等と協力して、高齢者の暮らしの充実が出来る事業所になってきている。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7 評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>サービス評価の意義や目的を伝え、自己評価に取り組むようにしている。外部評価の結果は、ミーティングで報告し、具体案の検討や実践に努めている。</p>		
<p>8 運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議に報告と共に質問、意見、要望を受け、検討事項等も合わせ、取り上げられた内容の充実に取り組んでいる。</p>		<p>家族の医療対応策として、入居者の受診を含め、利用者が重度化していく中での往診の具体案に取り掛かっている。</p>
<p>9 市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>包括支援センター、市町村担当窓口には折りにふれ、ケアサービスの取り組みや状況を、報告したり相談し、行政の情報もメールで届くようにしている。</p>		<p>藤の里だよりを発行し、各行政地域等に配布している。</p>
<p>10 権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>社会福祉協議会や包括支援センターへの学ぶ機会に参加したり、家族会などを通し必要性、活用を話し合ったりしている。</p>	○	<p>以前に後見人を付けていた利用者がいらしたので、職員も勉強した経緯がある。</p>
<p>11 虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待セミナーに参加したり藤の里でのアンケートを行い、ミーティングで話し合いをし、職員に浸透させている。</p>	○	<p>いろいろな種類の虐待の内容を職員に勉強してもらって、自分では気づかない虐待についてよく知らせており、虐待を防止している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に利用料金や、医療連携体制加算、医療負担、個人負担、重度化に対するの対応等、家族に十分な説明と納得を頂いている。</p>	<p>○</p> <p>解約時の説明の中に、入居金の返還や退所時の注意等入れている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>レクレーションや庭先でのお茶の時間を利用したり、個人の意見の出しやすい声かけの中で、職員リーダーがくみ上げている。</p>	<p>○</p> <p>ご意見箱を設けると共に、表に出ない苦情や不満を察知し、運営に反映させていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族等の来訪時には声がけ、利用者の状況やレクなどの写真を見たり、生活ぶりを伝えている。状況によりその都度きめ細かく、電話対応している。近況報告の便りを出したりする。</p>	<p>○</p> <p>藤の里だよりの中に職員の紹介を行い、立替金の報告は速やかにするなど、個々の対応を行っている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情箱を設置している。面会時に家族等と近況を話しながら苦情を出しやすいよう働きかけている。毎月行っている家族会やミーティングに検討改善の方向付けをしている。</p>	<p>○</p> <p>苦情の行政の窓口と、重要事項説明書の中にうたっており説明している。相談員も常時待機して苦情がある場合に備えている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング、研修会、面接を行う中で、意見を出し合っている。日頃より運営者、管理者は声がけを多くコミュニケーションを図っている。</p>	<p>○</p> <p>職員の疑問や提案には随時、説明やとり上げを行い、広く反映させている。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者のあらゆる状況を想定した上での勤務体制にしている。</p>	<p>○</p> <p>早番7:30～16:30 遅番10:00～19:00 夜勤16:30～翌9:30日勤9:00～18:00 必要な人員配置を行っている。その中に職員の休み希望はかなえている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者ご家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考える。職員の出入りはほとんど少ない。</p>	<p>○</p> <p>利用者に馴染みの職員があるようで、よい関係が保たれている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>藤の里内で議題を出し合い、月一回の研修会を行っている。法人外での研修も受講しており、研修報告やミーティング等で他の職員にもながし、レベルアップに繋げている。</p>	<p>○</p> <p>月に二会社内研修を行うようにしており、テーマを決め、担当者は研修係になっているが、職員全体のレベルアップを行っている。徐々に成果が上がってきている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県のグループホーム協会に加盟しており、勉強会や情報交換、研修生の受け入れなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>情報の発達源になるべく、グループホーム同士のネットワーク作りを行っており、サービスの質の向上を目指している。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常の会話や面談の中で、ストレスや悩みを把握するよう努めている。職員旅行の企画、食事会、ボーリング、カラオケ等親睦の場を作り、気分転換を図れる機会をつくっている。</p>	<p>○</p> <p>ストレスが蓄積しないように、職員同士の意志の統一と、対応の統一の方向をはかり、精神衛生上穏やかに過ごせる、職場の環境づくりをしている。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>ローテーションによる希望を極力取り入れている。健康状態の把握、職員が向上心を持って働けるよう職能評価を行っている。</p>	<p>○</p> <p>向上心が良い職場をつくるのにかかせないことを説明、理解させ、更なるステップアップに繋げている。面接によって指導し、評価している。</p>
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談で生活状態を把握するよう努める。サービス利用についての相談には、必ず本人と会って不安や困っていることへの思いに向き合い、家族も含め信頼関係に努めている。</p>	<p>○</p> <p>個別のADLの把握と個別の対応を行うことで、家族と同じように自分のことを考えてくれていると理解して、わかってもらうよう努めている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の状況を把握し、家族の求めているものを理解し、藤の里でどのような対応が出来るか、事前によく話し合っている。</p>	<p>○</p> <p>利用者の背後にいる家族が不安を解消出来るようにすることが、利用者の求めていることにつながる面が応々にしてあるので、聴いたり言語外の訴えにも、耳を傾けている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時本人や家族の思いと状況等を話し合い、必要としている支援の提案、他のサービスの情報等考え合わせ、速やかに必要なサービスへと繋げている。</p>	○	<p>まず、情報と本人の家族の訴えの中から言語、非言語を含め、求めている支援を模索し、サービスにつなげていける職員の資質を育てていっている。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族や本人に藤の里を見学してもらい、何度か遊びに来ていただきながら安心して生活できるようサービス利用へと繋げている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、利用者に教えてもらえるような工夫、声がけに気配りし、職員の年齢層の対応に家族的な信頼関係を築いている。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、協力関係や気づきの情報共有に努め家族を支援している。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>外出や外泊で家族と一緒に過ごす事を勧めたり、行事に誘ったりしながら、よりよい関係の継続に努めている。</p>	○	<p>一泊旅行などに参加してもらい、一緒に過ごす時間の提供を行い、良い環境を保っていけるように職員全体で支援している。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>他の施設へ移ったりした人も面会をしたり、家族との交流、行事参加等呼び掛けている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>個別に話を聴いたり、相談にのったり、みんなで楽しく過ごす時間や、気の合う者同士で過ごせる場面作りをする等、利用者同士の関係が旨いくよう、職員が調整役となり支援している。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設へ移ったりした人も面会をしたり、家族との交流、行事参加等呼び掛けている。	○	以前いた人との連絡を絶やさない様に努めている。年賀状や「藤の里だより」を渡したりしている。
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声がけ、把握に努めている。	○	本人の希望を大切にして支援方向を決めている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者等から聴き取る様にしている。レクや行事参加で、プライバシーを配慮しながら把握に努めている。	○	本人らしさを残す支援を行っている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活、心理面の視点や出来る事に注目し、その人全体の把握に努めている。	○	出来ることは極力、自分でやってもらえる支援をしている。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させている。アセスメント、モニタリング、カンファレンス等含め、意見交換を行って、介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報を確認し、家族や本人の要望を入れつつ期間終了を待ち、見直し、検討、状態が変化した際は期間終了を待たずに見直しを行っている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別にファイルを用意し、食事、水分量、排泄等身体的状況や薬の確認をしたり、本人の言葉、会話等ケア記録に記入し、職員間の情報共有を徹底する。介護計画は、常時記録と共に見られるようファイルしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人、家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援を、柔軟に行っている。医療連携体制を生かして、医療的にも利用者にとって個々の満足をたかめよう努力している。</p>		
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>利用者が安心して、地域で暮らしを続けられるよう民生委員、ボランティア、消防、図書館等、普段から活用したり連携をとっている。</p>	○	<p>民生委員や社会福祉協議会からも、情報を貰って活動したりしている。これらを支援に繋げていっている。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>地域の図書館や観劇に行ったり、訪問理美容サービスを利用している。</p>	○	<p>リハビリが必要な人は生活リハビリを日常生活の中に取り入れ、残存機能の保持に努めている。言葉を忘れないようにお話ボランティアの支援も行っている。往診のケースもある。</p>
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営会議に、地域包括支援センターの職員が参加することにより、関係が強化される。情報交換協力関係を築いている。</p>		
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人家族が希望するかかりつけ医、又は協力病院となっている。受診や通院に本人家族の希望に対応している。</p>	○	<p>主治医の往診の人や、定期的受診等、個別の対応が出来る。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	指定協力病院の際、認知症に関する診断や治療、対処方法など医療の対応が、利用者個々にできる病院を探し、認知症に適切な指示や助言をもらっている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談、助言対応をしてもらっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族とも協働しながら、医療機関と三者一体となって退院計画を具体的に話をする。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う不安に、藤の里が対応し得る最大のケアについて、説明を行っている。	○	主治医との連携により、家族を含めたターミナルケアの準備がある。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心してする最期を迎えられるように、随時意志確認をしながら取り組んでいる。	○	高齢者の方も入居されているので、近々遭遇する問題だと考えられる。最後まで尊厳を持った人としての支援を行いたい。
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合、情報交換を行い注意が必要な点についてや、きめ細かな連携を心がけている。	○	情報提供、サマリーの記入項目を充実させ、住み替えによるダメージの防止をします。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>常に言葉使いや、介護方法などに配慮するように、申し送り時等を利用して活かしている。記録などについての守秘義務を励行しており、管理についても留意している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日常生活の中で、利用者に合わせた声がけ、本人の希望や意志に働きかけ、本人の意志決定を促している。</p>	<p>○</p> <p>選択肢を与えて選んでいただくのも、ご本人の意思を決定しやすい選ばせ方を工夫している。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日、その時の体調に配慮しながら、個性のある支援を行っている。</p>	<p>○</p> <p>職員の作業中に呼ばれたりした時の対応を「待ってください」と答えるのではなく、その人のペースに合わせた介助を行っている。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の意思決定で衣類は着ている。支援が必要な人には、職員と一緒に考えて決めている。馴染みの美容院で染めたりカットしている。</p>	<p>○</p> <p>鏡を一緒に見たりして、顔にクリームや整髪を楽しみながら行っている。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>頂き物の野菜等は、利用者と一緒に作りながら一緒に作ったりしている。</p>	<p>○</p> <p>片付けの役割を持っている人は、自分の仕事としてやって下さっている。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>コーヒー、紅茶等好みのものを作ったり飲んだり、嗜好品を楽しめる支援をしている。</p>	<p>○</p> <p>おやつは全て手作りで、自然な味にしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>時間、リズムを把握し、トイレ誘導、声かけを促し、トイレ排泄ができるよう支援している。オムツ使用者ゼロ</p>	○	<p>体調が悪いときはオムツにしたりするが、自立に近づく介助を行っている。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>本人のペースで入浴している。心臓疾患のある人などには長湯の希望があっても説明し、納得を頂いている。</p>	○	<p>ユニット毎(火・木・土)(月・水・金)と入浴があるので、その日に入りたくなければ次の日に、別のユニットで入浴させてあり、本人の希望を生かしている。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>不眠の人の原因を把握し、日中の体操、日光浴等活動を高め、安眠に繋げるようにしている。</p>	○	<p>本人ペースを大切にして、ゆったりした気分で入眠するように支援している。</p>
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>役割、楽しみを持っている。掃除を手伝う人、食事をかたずけてくれる人、園芸をする人、洗濯を干したりたたんでくれる人、得意な料理をしてくれる人、新聞月刊誌を楽しみにする人等、楽しんでできる支援をしている。</p>	○	<p>行事やレクを楽しみに日々を送っていただいております。絵手紙、書道、カラオケ等楽しい時間を過ごしていただける支援をしています。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者が管理できる人は、家族の協力を得て持っている。できる人への支援をしている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>季節感を味わっていただけるよう散歩、外でのお茶飲み、ドライブ、花見観劇等体調に合わせて出かけている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>本人希望が叶うよう、家族の協力を得て計画したりしている。実家に帰る、墓参り、法事、祝い事等支援している。時には職員が付き添って家族の負担軽減をはかり、出来るだけ参加できるように協力している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状を書いたり、書ける人は日常的に手紙を書いたり、孫とのやりとりを楽しんでいる。電話も希望時、随時かけられる支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族、知り合いの方等、いつでも気軽に訪れやすい雰囲気作りに心掛けている。夜間以外の面会は来訪する人の事情も合わせた配慮をしている。訪問された人は各々の居室で、談笑でき満足を得ている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや申し送りなどで話し合ったり、職員の共有意識を図っている。	○	拘束は基本的に行っていない。危険防止の為の拘束は、文書で場所、時間等を記入し、家族に説明し、了解を頂いている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りの徹底と、さりげなく声がけをし、安全面に配慮しながら自由に暮らせるよう支援している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守りやすい位置、空間フロアで全員の状態を、把握するよう努めている。職員の声がけ、プライバシーの配慮も含め、安全面での配慮を行っている。夜間は巡視の励行で、事故防止を図っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	管理方法を決めている。利用者の状態に合わせ、個々の危険管理を行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告、ヒヤリハットの記録、誤嚥対策等に申し送り、ミーティングにより職員の共有意識を図っている。	○	防火訓練を年に四回行っており、パターンを変えているいろいろな状況に対応出来る、知識や動きを身に付けている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命研修に参加したり、勉強会を行っている。日中、夜間とマニュアルを作り、職員全員に周知徹底をしている。	○	看護師を中心に社内研修では、既応歴や持病に応じた急変のパターンを想定し、緊急対応を訓練している。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得、近隣、家族会にも声がけ、年四回の防災訓練を行っている。	○	地域の避難場所を職員にも教えてある。災害の場合の連絡方法を確認しあっている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族と話をする機会を多く持ち、面会時には暮らしぶりの中で、藤の里での工夫や取り組み方針を話し合っている。	○	リスクや急変についての周知を行い、不安やストレスを与えない生活を送っていただく策や対応を行っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を常に把握し、食欲、排泄、顔色などの変化が見られた時は、バイタルチェックを行い家族、医療受診に繋げている。	○	夜間も巡視をおこない、体調に合わせて対応している。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに個人個人の処方箋のコピーを入れ、職員が内容把握できるようにしている。服薬時本人に手渡し、服用確認をし、袋を回収している。毎日薬の配薬箱に薬を入れ替えており、服薬管理を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事、排泄、水分量の確認をしており、散歩、体操、お手伝い等体を動かす事により、自然排便を心掛けている。便秘の時は本人に合った、下剤で排便を促している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、うがいを、職員の声かけ介助により行っている。夕食後の口腔ケア時必ず義歯洗浄を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）</p>	○	<p>感染症の隔離、ガウテック等、学習訓練している。</p>
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのもの、使い慣れたものを本人の意向、家族と相談しながら、居心地のよい居室に配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、空調等温度調節を、こまめに行っている。利用者一人一人の状態に配慮しながら、居室の温度調節をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、手摺や浴室、トイレ、杖歩行を活動維持に合わせ、車椅子対応との安全確保と自立への配慮をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとって「何がわかりにくい」「何がやっていただけか」職員、担当等で話し合い、利用者の目線に立って不安を取り除けるよう、工夫し試みている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植えたり、季節にあわせ野菜作りをしたり、テーブル、ベンチ、ウッドブランコを置いたり、日光浴、外気欲と活動を楽しんでいる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員が健康で笑顔を絶やさない一人一人を大切に、生き生きとしたお顔で暮らすこと。入居様がそれぞれ自分の家のようにくつろいで生活されているし、それぞれの役割をもって頂いている。職員は一樣に明るく笑顔で接している様子が見られており、お互いに(入居者様と職員)信頼関係が強く結びついている。外出機会をいろいろ作って楽しみを増やしている。